

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2011(平成23)年1月15日 第449号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1-2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行

●—— 今月の主な紙面 ——●

(1面) ●年頭所感

(2・3面(見開き))

- 連載 歯の喪失は予防できる
人生の最後までおせんべいをバリバリと 第6回
- 話題 動機づけ面接法—禁煙する気のない人への支援スキル
第234回ヘルスケア研修会より
- 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
元気でいきいきシリーズ 第7回:医師/保健師/
管理栄養士/健康運動指導士のコラム

(4面) ●適切な評価を目指して

- 特定保健指導研修会(評価)を開催—中央会
- 「産業安全運動100年記念事業」が始動
- 山田邦子さんの楽しいトークで学ぶ
子宮頸がん予防とHPVワクチン
- 乳がん予防啓発の講演会が八丈町で開催

年頭所感

東京都医師会

会長 鈴木聰男

明けましておめでとうございます。

日頃の皆様方の東京都医師会の諸事業に対する深いご理解とご協力に、改めて感謝申し上げます。

新型インフルエンザの流行から学んだこと

一昨年は、新型インフルエンザの流行が一つのきっかけとなり、わが国の防疫・予防体制さらにはワクチンの問題など、いくつかの感染症に



の重要性は今後も増していき

ます。

新年のご挨拶

東京都福祉保健局

技監 桜山豊夫



お子さんを中心の流行でも、予防の基本は手洗いで、新年を迎えて、今後の流す。油断せず、手洗いの励行状況に注意する必要があります。お願いたします。

新年明けましておめでとうございます。

「よぼう医学」読者の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

日頃、母子保健、学校保健、職域保健など地域保健の各分野の第一線で活躍中の皆様には、東京都の福祉保健医療行政に多大な貢献をいただき

ておりますことに、厚く御礼申し上げます。

11月には、北海道で流行が開始し、東京でも昨年末には、定点医療機関あたりの1週間の平均患者数の報告が1.0を超え、流行が始まったと思われ

ます。

一方で、昨シーズンはインフルエンザの陰に隠れていたノロウイルスが、今シーズンはな事業を行っております。

東京では、がん対策を進める上で不可欠な地域がん登録を12年度に実施すべく準備を進めております。がん登録を促進しております。がん登録を促進しております。

読者の皆様におかれましては、今後とも東京都の福祉保健医療行政に格別のご理解ご協力を賜りますよう、お願いいたします。

皆様方のより一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

この新型を含めて、インフル

エンス全体でみると、昨年

に過ぎません。昨シーズンは

3)で、新型(AH1)は2割

立ちついで、インフルエンザにしても、

ノロウイルス感染症にして

解は不可欠です。皆様のご協

ご挨拶いたします。

力をお願いいたします。

また国は、HPV、Hib、小児肺炎球菌のワクチンについて、12年度以降の定期接種化を進めてまいります。東京都としても区市町村と連携し、接種率向上を図ってまいります。

切れない医療

医療情報を共有し活用するために

その時にも、地域医療を守るために最も大切なことは、医療関係者の連携と協力であること

を学びました。

幸いにも昨年は、新型インフル

エンスの大きな流行もなく、ワクチン接種もいくつかの課題を残しながらも進められました

が、都民の命を守る、地域医療

の重要性は今後も増していき

ます。

それらの持ち場で責任を十分に果たしていくことが求められています。

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。健康寿命の延伸と生活の質の向上などを目的にスタートした国民健康づくり運動「健康日本21」。現在、最終評価が行われており、その結果を今後のさらなる健康づくりに生かしていくことが期待されています。私どもも健康増進・健康管理支援機関として、こうした行政や医師会、学会などの取り組みと連携し、人々の生涯を通じた健康づくりに協力していきたいと考えています。今年も、どうぞよろしくお願いたします。

財団法人東京都予防医学協会 役・職員一同

適切な評価を目指して

特定保健指導研修会(評価)を開催—中央会

特定健診・特定保健指導がスタートして約3年が経過し、中間評価を求められる時期となっている。しかし、評価をどのように行うかの明確な指針がないことなどから、現場からはとまどいの声も聞こえている。そうした中、本会など予防医学事業中央会傘下の全国支部で、特定保健指導に携わる保健師・管理栄養士・健康運動指導士・看護師を対象とした、特定保健指導研修会(評価)が、去る11月25日、26日の両日、東京・新宿区のルーテル市ヶ谷センターで開催された。今回はその模様をお伝えする。

各支部の課題を検討し、より質の高い保健指導へ



今回の研修会は、各支部での特定保健指導の取り組みの現状や課題を持ち寄り、どうすれば適切な評価ができるようになるのかを主なテーマに開催された。研修会の初日には、事前に各支部から集められた特定保健指導の実施状況アンケートの結果が報告された。続いて行われた支部事例報告では、本会の加藤京子保健師が進行役となり、岩手県支部の阿部妙子保健師、神奈川県支部の半藤優江保健師、兵庫県支部の亀井真由美保健師が登壇。それぞれの支部で取り組んでいる特定保健指導の評価の現状と課題について報告を行った。

その後、職種と地域、それぞれ2グループに分かれ、グループ別討議が行われた(写真)。生活習慣の評価基準、システム化の問題点、医療保険者との連携、通信での評価

向上と安全衛生活動のさらなる進展を目指すこととしている。

また、記念事業では12の事業を予定している。このうち企業・事業場・団体で取り組んで欲しい事業として、①安全宣言・安全の誓い②安全1000黙祷③記念植樹④企業・事業場・団体の自主的な取り組みをあげている。

また、現場での具体例をあげながら、活発な意見交換が行われた。

また研修会の2日目には、「アウトソーシング機関としての特定保健指導事業評価の在り方」と題し、あいち健康の森健康科学総合センターの津下一代副センター長の講義が行われた。

前日のグループ討議では、津下副センター長への質問事項もまとめられており、それ

らを反映した講義となった。津下副センター長は、特定健診・特定保健指導について改めて述べた上で、保健指導における評価の意義、保健指導がうまくいっているかどうか判断するポイント、保健指導事業の評価の指標などについて解説した。

続いて、自身が主任研究者を務める厚生労働省の研究室による検討では、「体重減少率に及ぼす要因を検討したところ、保健指導プログラムが、一番効果が高いとわかった」と述べた。

また、「アメリカの研究では糖尿病予備群の人を放置すると、8年後に糖尿病を発症

するリスクが高くなるが、生活習慣への介入により、発症を20年後に先送りすることができるという結果が出ています。適切な評価によって、より質の高い保健指導を行い、体重を始めとする有見率を減らす特定健診・特定保健指導を続けることが大切だ」と語った。

講義終了後には、講義を振り返り、参加者各自がそれぞれの支部の保健指導事業評価に向け、今後の取り組みなどの検討を行った。さらにその結果を持ち寄り、グループディスカッション及び、グループの代表による発表も行われた。

研修会の閉会時には、研修者に修了証が授与された。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当：江崎良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

「産業安全運動100年記念事業」が始動

今年、わが国の産業界で安全運動が開始されて100年目にあたる。これを記念し、全国的な業界団体の有志と中央労働災害防止協会などの災害防止団体

により、産業安全運動100年記念事業実行委員会(代表・米倉弘昌日本経済団体連合会会長)が組織され、「産業安全運動100年記念事業(記念事業)が実施される。

わが国では長年の安全運動により労働災害は減少傾向にあるが、今なお年間約54万人が被災、1千人を超える死亡者が出ている。

記念事業では、「安主専一」から100年 未来へつなごう安全の心」をスローガンに各種の啓発運動を実施。この事業を通じ、経営トップから現場で働くすべての人が、先人の安全にかけた思いと活動を振り返ると共に、これからの安全衛生活動の在り方を熟考し、安全衛生意識の一層の

また、記念事業では12の事業を予定している。このうち企業・事業場・団体で取り組んで欲しい事業として、①安全宣言・安全の誓い②安全1000黙祷③記念植樹④企業・事業場・団体の自主的な取り組みをあげている。

この他、「産業安全運動100年記念小論文」の募集や、「産業安全運動100年記念『第70回全国産業安全衛生大会』」の開催なども企画されている。

平成22年度健やか親子21全国大会家族計画自由集会「山田邦子さんの楽しい

トークで学ぶ 子宮頸がん予防とHPVワクチン

トークで学ぶ 子宮頸がん予防とHPVワクチン(主催 日本家族計画協会)が、去る11月11日、さいたま市・埼玉会館ホールで開催。市民ら約700人が参加した。

集会では、まず日本家族計画協会クリニックの北村邦夫所長が「子宮頸がんとその予防」と題して講演を行った。

北村所長は、「子宮頸がんの原因として知られているHPV(ヒトパピローマウイルス)には性行為のある誰もが罹患する可能性がある。ワクチン接種と予防法が確立された以上、これを利

用しない手はない。できれば、性交を始める前の若い年齢でワクチン接種したいものだ」とした。その上で、「しかし、子宮頸がんはワクチンだけでは100%予防できない。定期的な検診を受けることが大切だ」と呼びかけた。

続いて、タレントの山田邦子さんと北村所長が楽しいトークを展開。山田さんは、自らの乳がん体験を交えながら、がんの予防や治療の大切さを力強く訴えた。

その後は、メディアなど活躍する有志による「スター混声合唱団(団長 山田さん)のコンサート」が行われた。がん制圧への思いが込められたステージに

参加者は聞き入っていた。

働き盛り世代の女性に多い乳がんは、検診で早期に発見し、治療することで治る可能性が高いがんでもある。しかし、欧米に比べてわが国の検診受診率は極めて低く、乳がんで亡くなる人の数は年々増え続けている。

こうした中、「乳がん検診の大切さを伝えたい」をテーマに、去る11月28日、東京・八丈町で、市民を対象とした乳がん予防啓発のための講演会が開催された。

この講演会は、専門病院へのアクセスの困難な島しょ部では、とりわけ早期発見が重要となることから、安心して検診を受けてもらうための最新情報を提供し、受診率向上につなげようという八丈町健康課が企画したもの。

講演会では、本会の富樫聖子科長が、診療放射線技師としての立場から「乳がんを見つける検査とは」マンモグラ

フィ検査を中心に」と題して講演。乳がん検査の実際などを解説した。

また、乳がんの患者会、あけぼの会メンバーによる講演も行われた(写真)。

会が1月26日(水)14時から16時まで、東京・千代田区の「星陵会館」で開かれる。「がんを遠ざける生活習慣」をテーマに、国立がん研究センターの津金昌一郎部長が講演する。

司会は、職域保健・産業看護の飯島美世子主宰。

会場の「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」「国会議事堂前」「溜池山王」「赤坂見附」駅下車、徒歩10分以内のところ。

当日会場受付で参加費2千円を支払えば、どなたでも入場できます。

定員先着400人。



安全運動が開始されて100年目にあたる。これを記念し、全国的な業界団体の有志と中央労働災害防止協会などの災害防止団体により、産業安全運動100年記念事業実行委員会(代表・米倉弘昌日本経済団体連合会会長)が組織され、「産業安全運動100年記念事業(記念事業)が実施される。

わが国では長年の安全運動により労働災害は減少傾向にあるが、今なお年間約54万人が被災、1千人を超える死亡者が出ている。

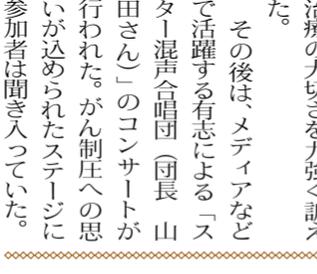
記念事業では、「安主専一」から100年 未来へつなごう安全の心」をスローガンに各種の啓発運動を実施。この事業を通じ、経営トップから現場で働くすべての人が、先人の安全にかけた思いと活動を振り返ると共に、これからの安全衛生活動の在り方を熟考し、安全衛生意識の一層の



がん予防や検診の大切さを熱く語る 山田さんと北村所長

がん予防や検診の大切さを熱く語る山田さんと北村所長

がん予防や検診の大切さを熱く語る山田さんと北村所長



会場も一体となって参加したスター混声合唱団のコンサート

会場も一体となって参加したスター混声合唱団のコンサート

お知らせ

第235回ヘルスケア研修会

がんを遠ざける生活習慣

1月26日(水) 14:16時
東京千代田区「星陵会館」

第235回ヘルスケア研修会

第235回ヘルスケア研修会

がんを遠ざける生活習慣

1月26日(水) 14:16時
東京千代田区「星陵会館」

第235回ヘルスケア研修会